

研 究 報 告 書

学 校 名 県立陽明高等学校

I 研究主題

“時代を切り拓き世界と交流する”課題解決型「まちづくりプロジェクト」
～小中高専がつながる、地域循環型学習プログラムの構築を目指して～

II 主題設定の理由

現代社会は、気候変動、貧困、不平等など、多くの課題に直面しており、これらの課題解決には、持続可能な社会の実現が不可欠である。SDGs は、これらの課題解決に向けた国際的な目標として、世界中で取り組みが進められている。

本校では、これまで高専や地域との連携を通じたキャリア教育を推進し、「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」などを通して、生徒が自己のあり方・生き方を追求し、地域課題を明確に捉え、持続可能な社会の形成に積極的に関わるための育成に取り組んできた。また、陽明高等支援学校と連携したインクルーシブ教育の推進にも力を入れている。

そこで、これまでの取り組みを「地域に開かれた教育課程」として再構築し、本校のキャリア教育全体計画を効果的に実践することで、「沖縄らしい SDGs の基本理念」に謳われている“時代を切り拓く”人材と“世界と交流する”社会を創造していくべく本研究主題を設定した。

以下は、「おきなわ SDGs プラン」の優先課題 1 2 のうち、4 点にアプローチすることで、達成していきたい項目である。

- **SDGs 達成に貢献する人材育成:** 生徒が地域課題の解決を通して SDGs 達成に必要な資質・能力を育み、持続可能な社会の担い手として成長することをめざす。特に、課題発見力、課題解決力、協働力、コミュニケーション能力などの育成に重点を置く。
- **地域社会との連携強化:** 教育機関を含む地域社会との連携を強化し、関係機関と「まちづくりプロジェクト」を通して、地域住民との協働促進、地域課題の解決に貢献していく。
- **キャリア教育の体系化と発信:** これまでのキャリア教育の取り組みを「地域に開かれた教育課程」として体系的に整理し、地域・社会と共有することで、本校の教育活動を広く理解していただくとともに、他校へのモデルケースとなることを目指す。

＊ おきなわ SDGs プラン優先課題 ＊

- 1 性の多様性（LGBT 等）、障がいの有無、国籍など、互いの違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、あらゆる場所で活躍できる社会の実現
- 2 医療・福祉の充実、健康長寿と生きがい、子どもを貧困から守る子育てしやすい暮らし
- 3 地域への誇り（しまくとうばの普及・推進等）と夢・目標をもてる学びの確保、教育の充実
- 9 共助・共創型の安全・安心な社会の実現

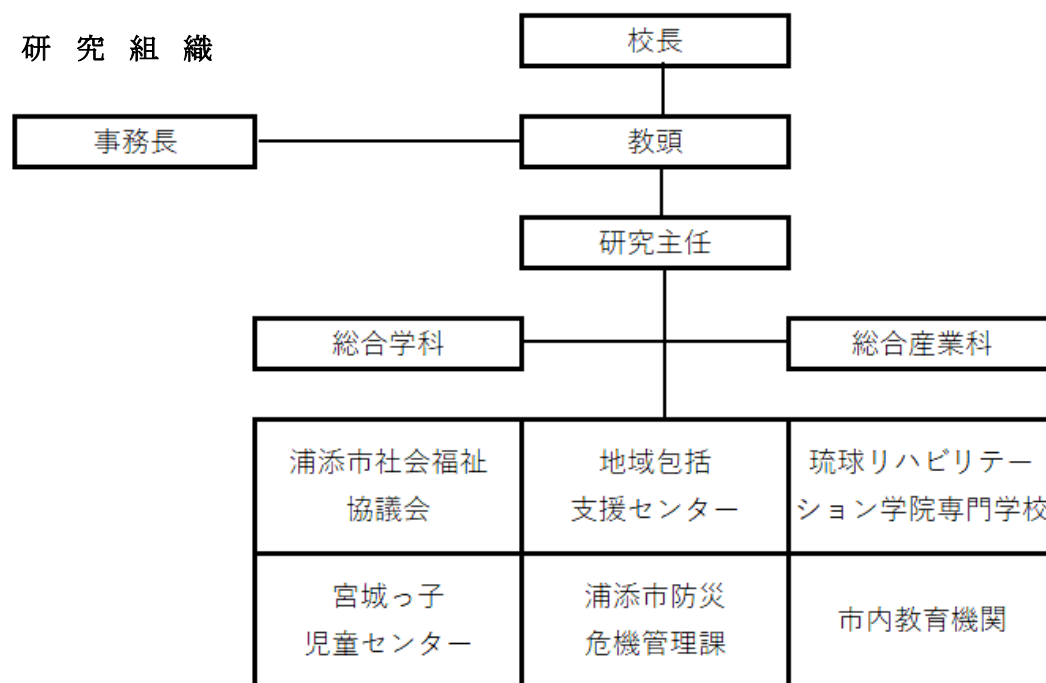
これらの目的を達成するために、課題解決型「まちづくりプロジェクト」を核として、地域及び小中高専とつながりながら SDGs 達成への取り組みを推進し、生徒の育成を図っていく。本研究を通して、生徒の成長と地域社会全体の持続可能性向上に貢献できると考えている。

Ⅲ 研究実践の主な内容

1 研究方針

- (1) 地域連携を展開している教科「福祉」を中心に取り組む。
- (2) アウトプット型学習プログラムを軸にし、市内外福祉・教育機関とプログラムの目標と内容を作成し、研究・実践していく。

2 研究組織



3 研究内容

時 期	研 究 内 容
4 月	研究組織発足
5～7 月	認知症学習プログラム
7 月	出前授業
8 月	バリアフリー体験実習
7～10 月	デジリハ学習プログラム
9 月	ハンドケア学習プログラム・体験会 ※総合産業科
10 月	デジリハ体験会 3校合同授業
10 月	県外先進校視察（京都）
10～12 月	防災福祉学習プログラム
12 月	福祉避難所ミニフォーラム・出前授業
12 月	県外先進校視察（大阪）
1 月	第3回 YOMEI キャリスクツ！
1 月	第13回陽明高校実践発表会（生徒による実践発表）
1 月	仲西中学校区コミュニティづくり推進委員会にて実践報告
2 月	令和6年度浦添市福祉教育活動実践報告会にて実践報告
2 月	校内実践報告会

4 研究実践 ※（ ）内は実施先。

(1) 「認知症を認知しよう！」出前授業（仲西小学校）

令和6年7月5日（金）仲西小学校にて、3年生93名へ実施した。ねらいとして、①小学生へ認知症の理解を促し、沖縄一やさしいまち浦添市に資する、②認知症学習プログラムをアウトプットすることで、学びの有用感を育む、③福祉専門職と合同授業や交流等を通して、キャリア観育成を図る、を設定した。これは小学校教員、浦添市社会福祉協議会（以下、「社協」）や地域包括支援センター（以下、「包括」）と打ち合わせを持ち、一緒に設定したものである。そこから本校生徒たちと5～7月にかけて計7回の認知症学習プログラムを行った。これには、企業・社協・包括・市内高齢者・琉球リハビリテーション学院専門学校（以下、「琉リハ」）が関わっている。当日は、出前授業の前半を陽明高校生が認知症に関する基本的知識と望ましい対応方法についてレクチャーを行い、後半は民生委員や社協が中心になり小学校近隣の地域資源を発掘し、各クラスで発表・共有を行った。小学生たちへの事後アンケートで「望ましい対応方法」について80%以上の正答率が確認できた。高校生は、伝えることで認知症に関する知識が定着化され、福祉専門職の働き方理解が促進された。福祉専門職の方々は、高校生の学びの成長に感動するとともに、自身の仕事のやりがいを確認し、モチベーション向上があった。

(2) バリアフリー体験実習（海洋博公園・美ら海水族館）

令和6年8月5日（月）海洋博公園・美ら海水族館を車いすで散策し、ソフト・ハード両面のバリアフリーを体感した。ねらいとして、①観光地を車いす散策し、障害当事者の視点及び観光バリアフリーについて理解を深める、②「沖縄観光バリアフリー宣言」の理解を深め、観光産業と共生社会を関連させた対人援助職の態度を育む、を設定した。当日は観光客の多さに圧倒されながら車いすで散策することの心理的負担を感じながらも、スタッフの車いすユーザーへのサービス助助や1階駐車場のバリアフリー展開等に感動を覚えた。実習前後では、海洋博公園管理センター職員から公園について基本的説明をいただき、観光産業に必要となる福祉マインドについて考える貴重な時間となった。ふりかえりで、平成19年に宣言された「沖縄観光バリアフリー宣言」の各項目にのっとった評価を行い、センターへ提供した。その後、センターからも回答とアドバイスをいただき、生徒たちの今後の対人援助職としての態度育成に大きく活きた。

(3) ハンドケア体験会（特別養護老人ホーム大名）

令和6年9月26日（木）総合産業科の福祉を学んでいる3年8名が、福祉事業所を訪問し、利用者様20名へハンドケアを提供した。ねらいとして、①相手の肌に触れる手技を通して自他を思いやる気持ちを育む、②日常生活や進路先でハンドケアの活用方法を考え、キャリア観育成につなげる、を設定した。ハンドケアに関する手技に加え接遇マナーを4回シリーズで学び、体験会では利用者様とコミュニケーションを楽しみながら、リラックス効果やスキンケア効果、血行促進や認知機能への刺激に役立てた。利用者様みなさん喜んでくれ、職員も利用者様の普段見られない笑顔に感動し、継続実施を求める声もあった。生徒たちも学びの有用性を実感し、キャリア観育成につなげることができた。

(4) デジリハ体験会 3校合同授業

（大平特別支援学校中学部・琉球リハビリテーション学院専門学校）

令和6年10月16日（水）本校へ大平特別支援学校中学部2年（以下、「大平」）25名を招き、琉リハ学生と合同で、体験会を実施した。ねらいには、①上級学校生徒との交流を通して、学びにワクワクし新しいリハビリテーションの可能性に触れる、②支援が必要な方の特性と個性を理解し、体験内容を企画運営していくなかで共生社会を創っていく視座を育む、とした。大平や琉リハ、(株)デジリハと計5回の合同授業を行い、デジリハ理解→当事者理解→体験会企画をすすめ、当日は大平の各生徒の個性と特性に合ったデジリハプログラムを提供し、大平の生徒たちも喜びながら身体も心も

動かし、新しいリハビリテーションの可能性について、先生方や福祉専門職の方々も感動しており、大平の職員から「授業の構造として成立していたことが一番の感動でした」との言葉もいただいた。

（５）福祉避難所ミニフォーラム&出前授業（宮城っ子児童センター・宮城小学校）

令和６年１２月６日（金）宮城っ子児童センター（以下、「宮城っ子」）にて、福祉避難所ミニフォーラムを開催した。ねらいとして、①１つでも救える命を増やせるマンパワーとなる、②各自が、自身の地元で（福祉）避難所の運営をサポートできる、を設定した。これは、宮城っ子と社協、包括、浦添市防災危機管理課（以下、「管理課」）と打ち合わせを重ね、設定したものである。１０月から１７回の学習プログラムを宮城っ子らと構築し、宮城っ子の機能調査や防災マップ作成と提供、野草摘みと調理実習などを展開した。福祉専門職や地域住民と複数回一緒にプログラムを進めていく中で“顔の見える関係”が構築され、生徒・地域・教師と一緒に学び、地域と教師が一体になって学びの環境を適宜整えていくといった“ありがたい学びの姿”ができてきた。当日は、生徒たちと地域住民が福祉避難所のありかたについて意見交換し、管理課へ情報提供を行った。

令和６年１２月１３日（金）宮城っ子へ宮城小学校４年生１００名に来館してもらい、①小学校周辺の地域資源を理解してもらうこと、②福祉避難所での要配慮者の支援方法をねらいとし、出前授業を実施した。「災害時、宮城っ子にあるものをどう使うか」「避難所にあってほしいもの」の意見交換のなかで、小学生ならではのアイデアが出され、高校生や福祉専門職の方々も色々気づかされ、大変有意義であった。

（６）第３回 YOMEI キャリスクッ！（宮城小学校）

令和７年１月２４日（金）本校体育館へ宮城小学校６年生１１９名を招いて、家庭科・保健体育科と合同で開催した。この企画は、総合学科ならではの特色ある学びを小学生へ体験してもらい、上級学校へワクワクしてもらうことがねらいである。当日は８つのブースを準備し、小学生は事前に希望したブースを２回体験した。小学生は高校生の学びにワクワクし、高校生は“自身の普段の学び”が他者を喜ばせることにつながる学びの有用性を実感し、参観した先生方や福祉専門職の方々もとても感動し、「月に１回など定期的に訪れ交流したい」などの声もいただいた。

（７）第１３回陽明高校実践発表会（てだこホール）

令和７年１月２４日（金）てだこホールにて、これまでの取組を科目「介護総合演習」受講生３年１０名が本校及び陽明高等支援学校の生徒・職員、地域の方々へ実践発表を行った。

（８）浦添市福祉教育活動実践報告会（浦添市社会福祉協議会）

令和７年２月６日（木）浦添市社会福祉協議会にて、これまでの取組を１００名の福祉・教育関係者へ実践報告を行った。

（９）校内実践報告会（陽明高校）

令和７年２月２６日（水）校内実践報告会にて、実践報告を行う予定である。

Ⅳ 研究実践の成果と課題

１ 成果

社会課題に対し、本校が属する仲西中学校区の福祉機関及び専門職、教育機関と対話を重ねながら生徒たちが考え出す解決策をサポートし、それを児童生徒学生・地域住民の学習プログラムとして構築できたことは非常に成果だと感じる。一番の成果は、お互いの“顔の見える関係”が構築され、名前呼び合える関係になれたことではないだろうか。以下、達成目標に対する考察である。

- **SDGs 達成に貢献する人材育成**：生徒たちは、地域課題の解決を考えチャレンジを重ね、協働力やコミュニケーション能力などが育まれ、持続可能な社会の担い手として成長した。

- **地域社会との連携強化**：ステークホルダーとお互いの強みを活かしたい、地域住民との協働が促進され、次年度以降もともに取り組んでいくことが確認された。
- **キャリア教育の体系化と発信**：取り組みを「地域に開かれた教育課程」として体系的に整理し、地域社会と共有することで、本校の教育活動を広く理解していただくことができた。

「街の子どもたちは 街の大人たちと 街で育てる」を掲げ、地域循環型学習プログラムの構築に取り組んできた。気づけば「街の子どもたちが、街の大人たちと街を育てる」ということを我々関係者一同が共有したところである。今後も“時代を切り拓く”人材と“世界と交流する”社会を創造していくべく、まちづくりをすすめていきたい。

2 課題

今後は各教科・学年・分掌と連携をとり、各自の特色を活かしたまちづくりプロジェクトを展開していくことが、仲西中学校区の強みになると考える。それをモデルにした学習プログラムを他4校区にも広げ、児童生徒学生と地域を接続した“沖縄一優しいまち浦添”へとゆるくゆるく貢献していきたい。